

日本語教室活動のための 研修会



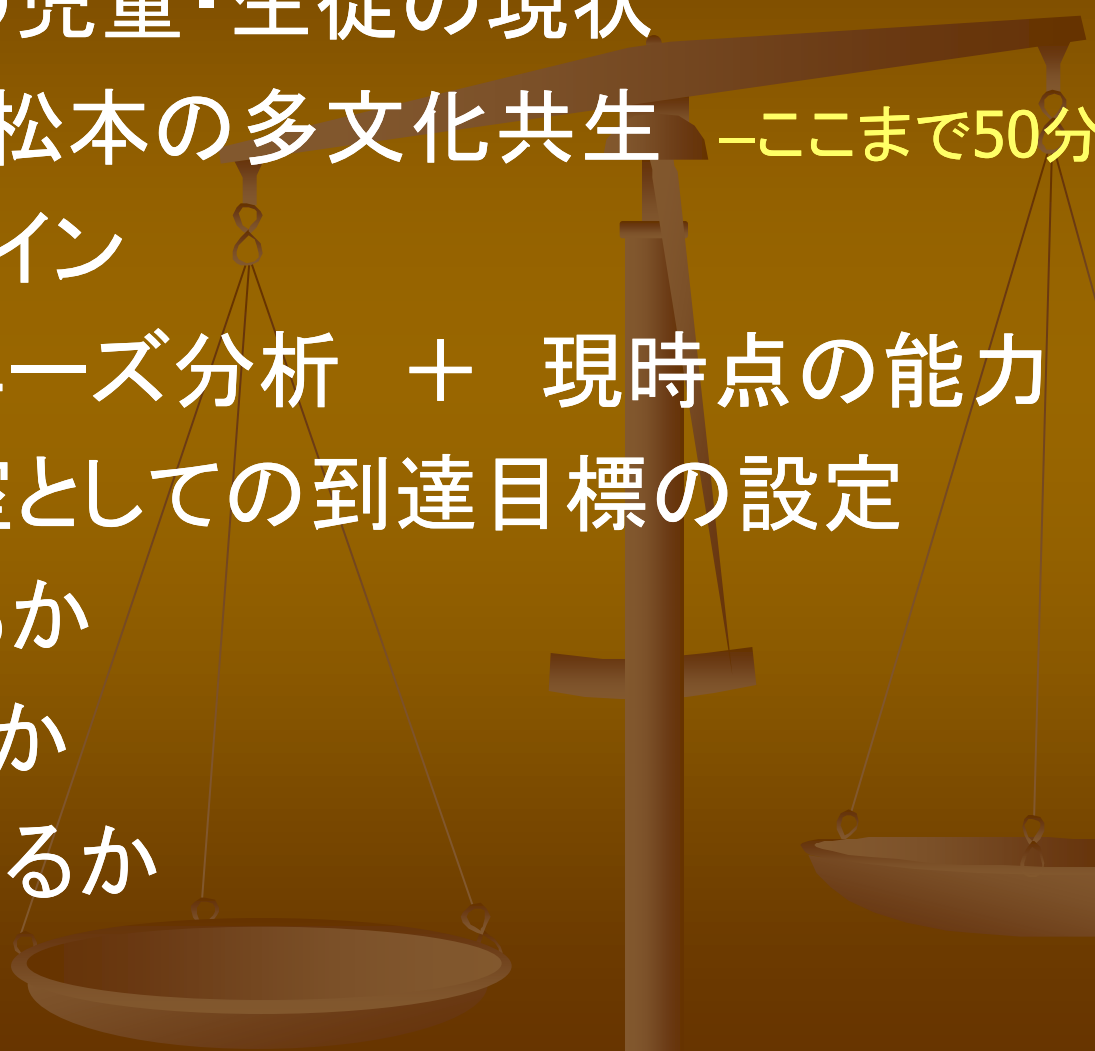
第2回

2010年3月20日

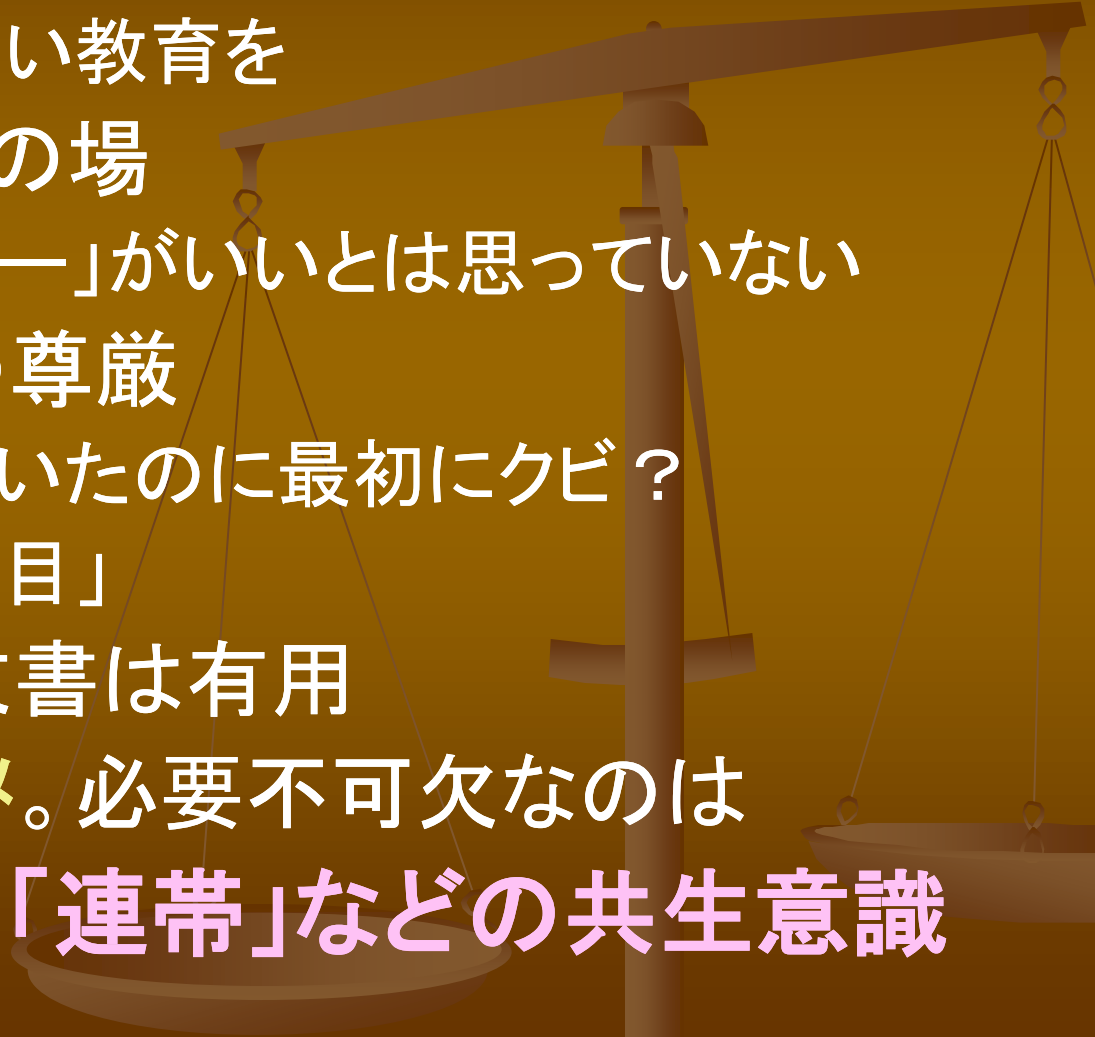
NPO法人 中信多文化共生ネットワーク 代表理事
佐藤友則

(信州大学国際交流センター 准教授)

目次

- 1-1. 外国由来の児童・生徒の現状
 - 1-2. 中信、特に松本の多文化共生 -ここまで50分
 - 2-1. コースデザイン
 - 2-2. 学習者のニーズ分析 + 現時点の能力
 - 2-3. 日本語教室としての到達目標の設定
 - 2-4. 何を教えるか
 - 2-5. どう教えるか
 - 2-6. どう評価するか
 - 3. まとめ
- 

外国由来の人が困っていること

- 日本語の学習
 - 継続的に質の高い教育を
 - 日本人との交流の場
 - 自分達の「ゲッター」がいいとは思っていない
 - 人権、人としての尊厳
 - 真面目に働いていたのに最初にクビ？
 - いつまでも「白い目」
- 通訳や多言語文書は有用
- それだけじゃダメ。必要不可欠なのは
- 日本人の「配慮」「連帯」などの共生意識
- 

外国由来の児童・生徒の現状①

- 松本の現状：

2009年165名、うち学習困難者65名(市教委)

- 「子どもは待ってくれない」

- 2年間放置→ もはや手遅れ

- 現実：不就学で何年も放置のままの児童多し

- 親世代とは分けて考えなければ

- 高校進学はきわめて**困難**：

長野県の外国由来児童の高校進学率**37%**(信毎)

外国由来の児童・生徒の現状②

- 今、現実には起きていること
 - 中卒、または中卒ですらなく身体は20歳
 - 思考言語なし：日本語も親の母語も
 - 仕事なし：あっても単純労働のみ
 - 親や周囲のサポート不十分
 - アイデンティティ崩壊
- 起こりうる問題
 - 低階層化 & 不安定化
 - 犯罪多発の危険性も [警察はすでに注視]
- きちんと教育 → 日本社会の貴重な構成員に
非常に「もったいない」状況

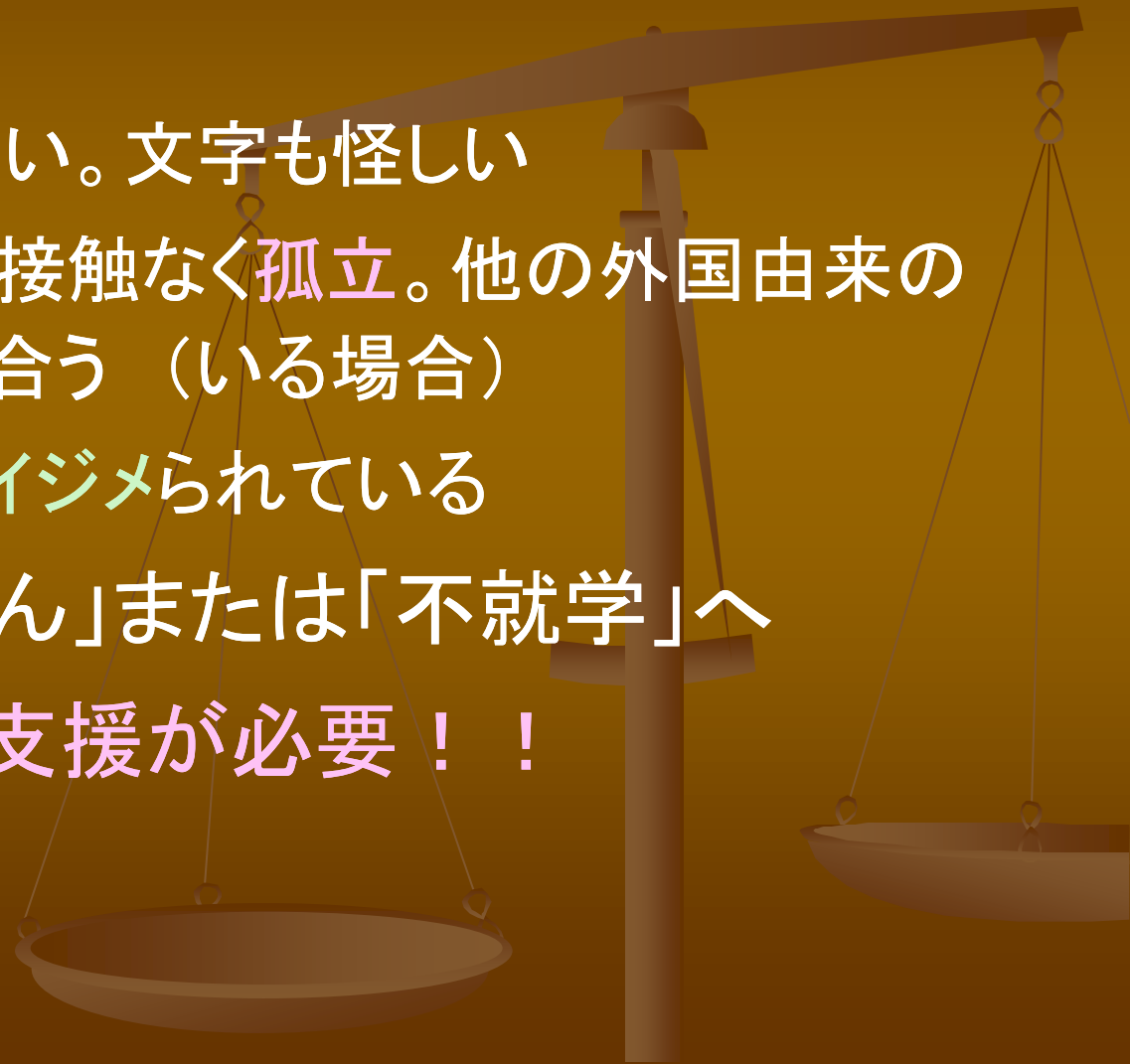
外国由来の児童・生徒とは①

■ パターン1

- 日本語が話せない。文字も怪しい
- 日本人児童との接触なく孤立。他の外国由来の児童とのみ付き合う（いる場合）
- 場合によってはイジメられている

→「クラスのお客さん」または「不就学」へ

⇒早急に、特別な支援が必要！！



外国由来の児童・生徒とは②

■ パターン2

- 話せる

- 日本人の子どもと遊んでいる

→特別な支援の必要なし という判断

⇒正しいか？

- 正しい場合もある。片親が日本人で日本で生まれ育ち、日本社会に溶け込んでいる時

→ただし、全体の1/3以下(パターン3)

⇒大部分は、特別な支援が必要！

考えられる対応策①

■ パターン1

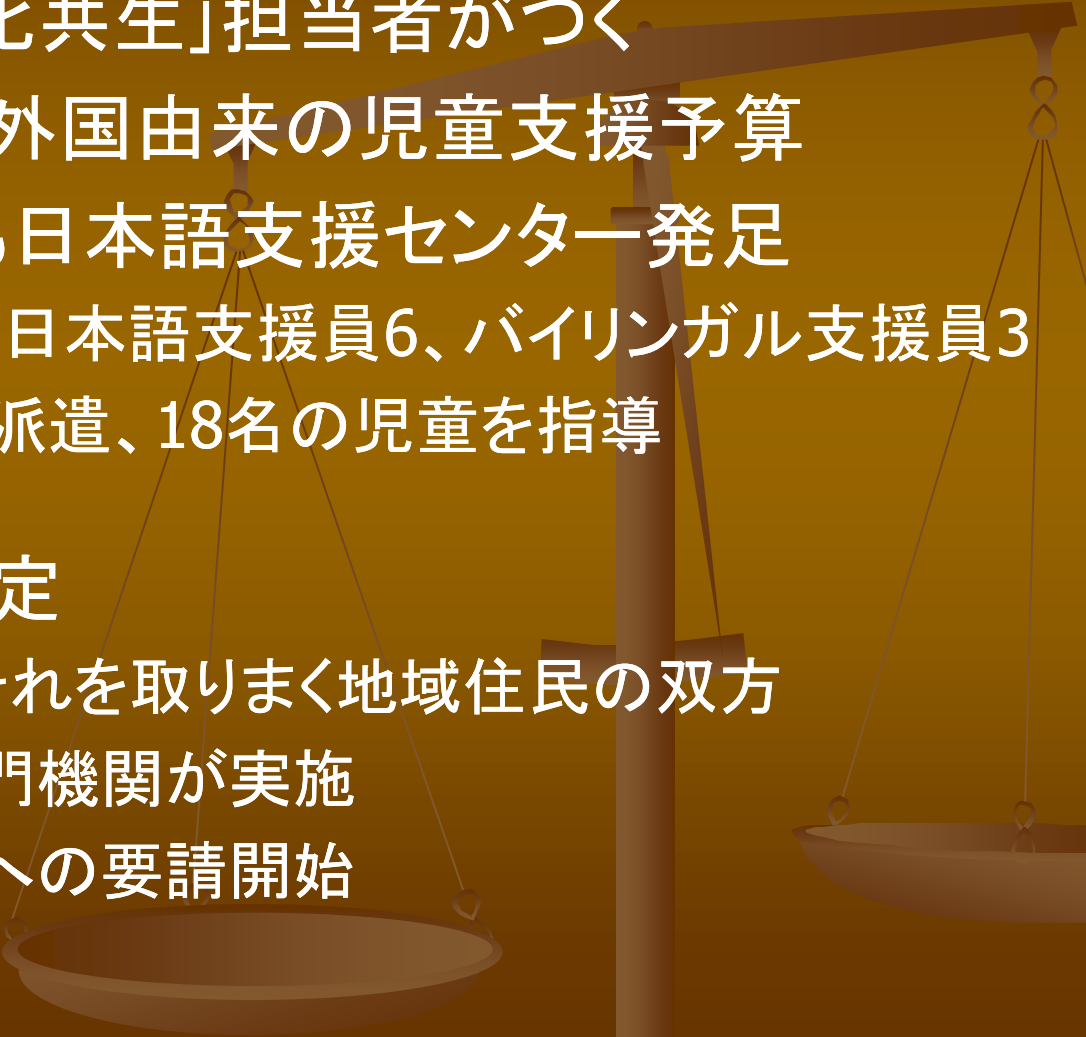
- すでにいる児童：学校の先生が把握
- これから来る児童：外国人登録の段階で児童の日本語能力を把握
→教育委員会と日本語教育機関に連絡
- 通常の学校教育から離れて徹底した**初期指導**
 - 3ヶ月をメド
 - 生活言語としての日本語の習得
 - さらに日本の学校事情の指導
- その後、パターン2の支援体制に編入

考えられる対応策②

■ パターン2

- 通常の学校教育のまま、時折、取り出し授業
- 松本子ども日本語支援センター等ですでに実施
 - 学習言語としての日本語の指導
 - 遅れている算数・社会などの教科補講
- 日本人児童に完全に追いつくのは困難
- 「自分達を見てくれている」精神面のフォロー
 - 不就学の予防
 - できれば高校進学へ

中信、特に松本の多文化共生①

- 2009年4月:「多文化共生」担当者がつく
 - 9月:松本市議会で外国由来の児童支援予算
 - 12月:松本市子ども日本語支援センター発足
 - コーディネーター1、日本語支援員6、バイリンガル支援員3
 - 市内の小中学校に派遣、18名の児童を指導
 - 実態調査の実施予定
 - 外国由来の人と、それを取りまく地域住民の双方
 - 信州大学と調査専門機関が実施
 - 実態に基づいた市への要請開始
- 

中信、特に松本の多文化共生②

- 「多文化共生プラン」策定
 - 2011年に策定予定。市長ふくめ庁内も同意
 - 今後の松本市の多文化共生行政の指針
 - 09年秋から始動。庁内ワーキング会議20名
 - 勉強会を数回
 - 10年4月に本格始動。プラン策定委員会
:市内の委員10名
 - 5回ほどの会議を実施→ プラン提案へ

中信、特に松本の多文化共生③

地域・防災

安定居住、
防災体制、
自立、交流、
日本人の意
識啓発、連
帯感の醸成
など

中信多文化
プラザの設立

教育

日本語教
育、児童へ
の緊急かつ
十分な支援
、親の適応
への援助
など

初期指導、ボ
ランティア支援

労働・医療・保健

情報の
多言語化、
労働環境整
備、安心で
きる医療&
保健、生活
保護など

集住都市会議、
企業等と連携

多文化
共生社
会の実現

中信多文化プラザ

- 優秀なコーディネーター + 書籍 + スペース
- 定期的な教室 + 集会所 + 年数回イベント
- 広報が極めて重要

⇒多くの「人」が集う場所へ

「人」= 外国由来の方も、日本人も
→様々なコミュニティ形成

⇒外国由来の方の自立を促す

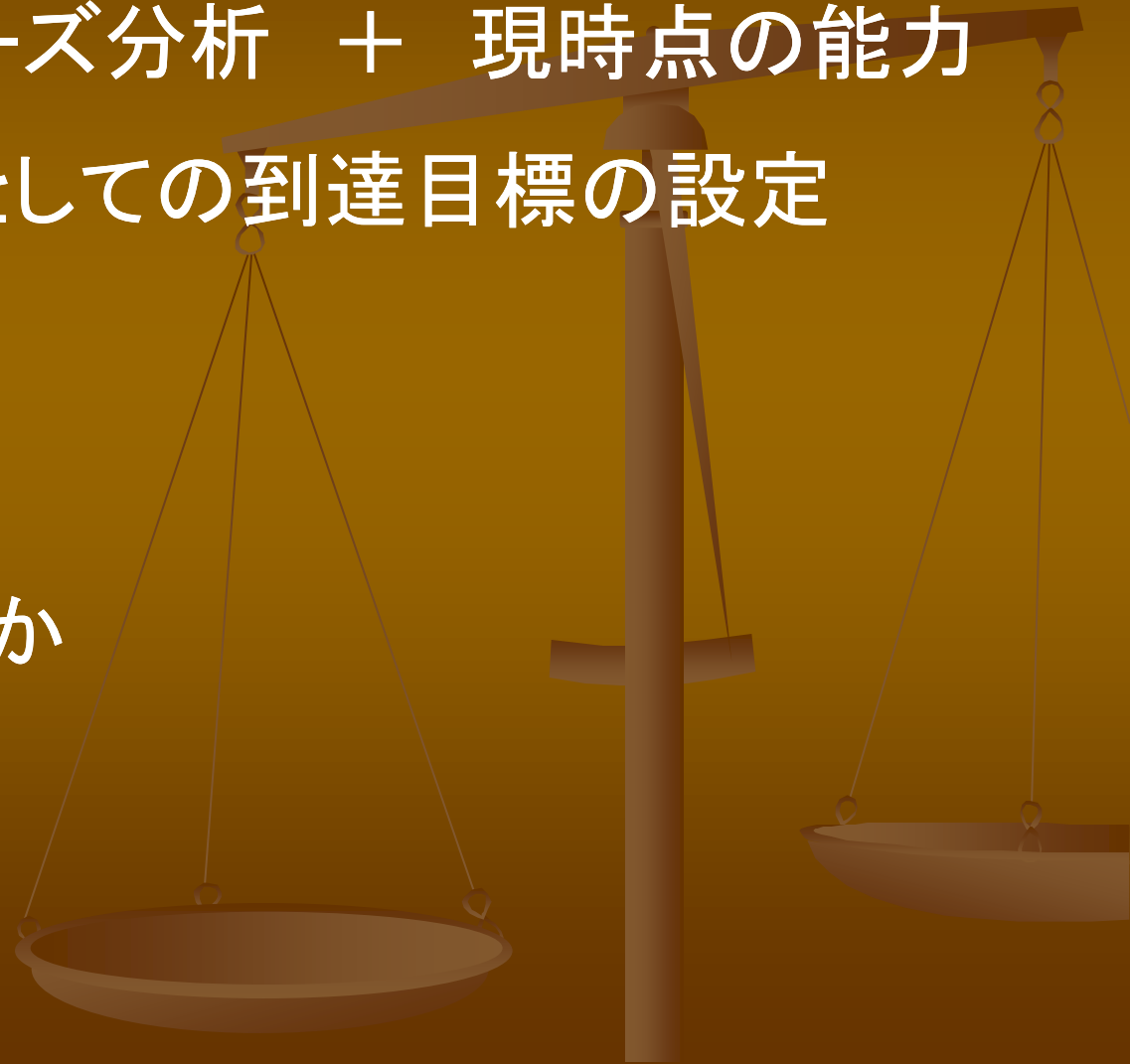
- コミュニティの内部で自己解決する力を養成
- いい意味でのお互いへの干渉が発生

日本語教授法の基礎

- 「優秀な日本語教師をめざす」ことは前提外
 - 希望者: 大都市の優秀な日本語教師養成機関へ
 - + きびしい日本語学校での数年間の勤務
 - 大学院は教師養成が目的ではない
- ここでは最低限の基礎的な教授法を紹介
- 日本語学校での指導をベース
 - 日本語教室への応用を考える

日本語教室のコースデザイン

- 1. 学習者のニーズ分析 + 現時点の能力
- 2. 日本語教室としての到達目標の設定
- 3. 何を教えるか
- 4. どう教えるか
- 5. どう評価するか



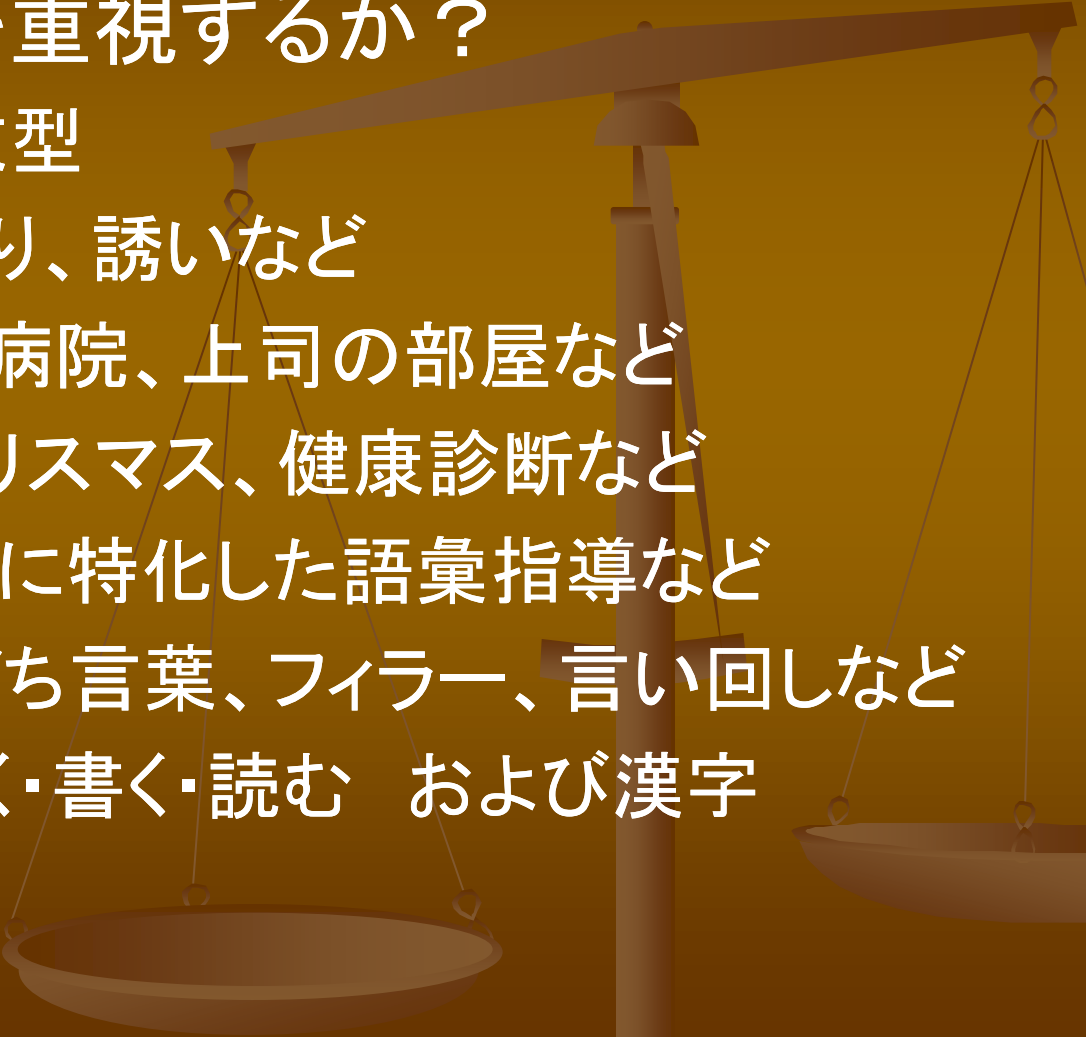
1. 学習者のニーズ分析 + 現時点の能力

- 学習者はニーズを正確に把握しているか？
 - ペラペラになりたい？、TVが聞いて分かるように？
日能試2級合格？
- 状況把握をベースにしたニーズ推測が大切
- 全てのニーズに応えるなど、プロでも不可能
 - 話す、聞く能力があればOKなのか
 - ある程度の読み、書く能力も必要なのか
 - 日能試の対策は本当に必要か？
- 現時点の能力： テスト+面接で評価

2. 日本語教室としての到達目標の設定

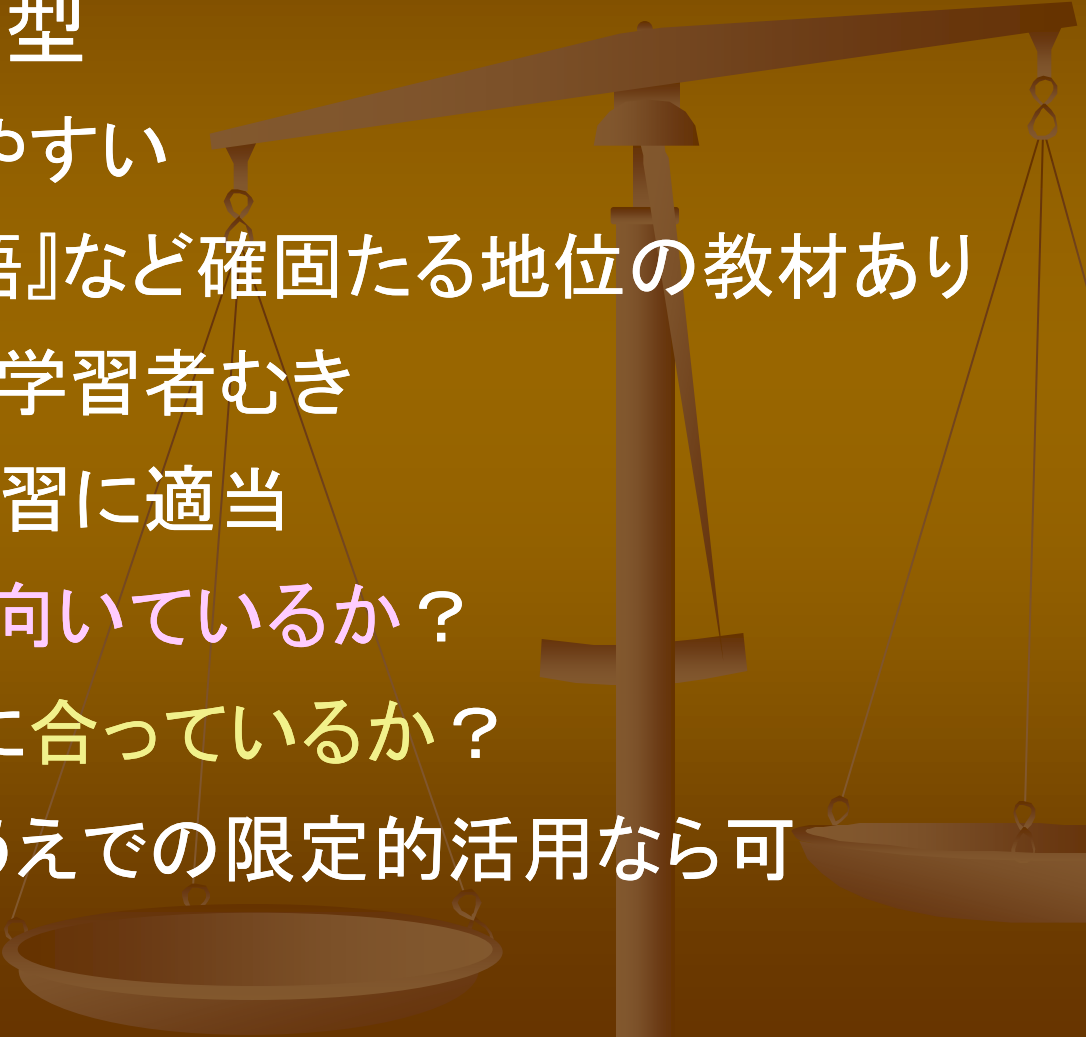
- 1. のニーズにどこまで応えられるか？
- 各教室の条件をベース⇒ クラス毎に目標設定
 - 授業時間数： 週1日2h程度(信大・初級 週4日12h)
 - スタッフ数と質
 - 予想されるレベルと、レベル別学習者数
→場合によってはクラス編成を修正
 - 期間： 終わりが無いコース(信大・初級 4ヶ月)
→設定が難しいが、継続を前提に設定
- 設定したクラス目標を学習者にも提示
⇒ とともに頑張る

3. 何を教えるか①

- どのシラバスを重視するか？
 - 構造： 文法 & 文型
 - 機能： 依頼、断り、誘いなど
 - 場面： 買い物、病院、上司の部屋など
 - 話題： 趣味、クリスマス、健康診断など
 - 語彙： ある分野に特化した語彙指導など
 - 会話表現： 友だち言葉、フィラー、言い回しなど
 - 技能： 話す・聞く・書く・読む および漢字
- 

3. 何を教えるか②

■ 構造： 文法 & 文型

- 一見して分かりやすい
 - 『みんなの日本語』など確固たる地位の教材あり
 - 学習動機が強い学習者むき
 - 短期間の集中学習に適當
 - 日本語教室に向いているか？
 - ニーズと目標に合っているか？
 - それを分かったうえでの限定的活用なら可
- 

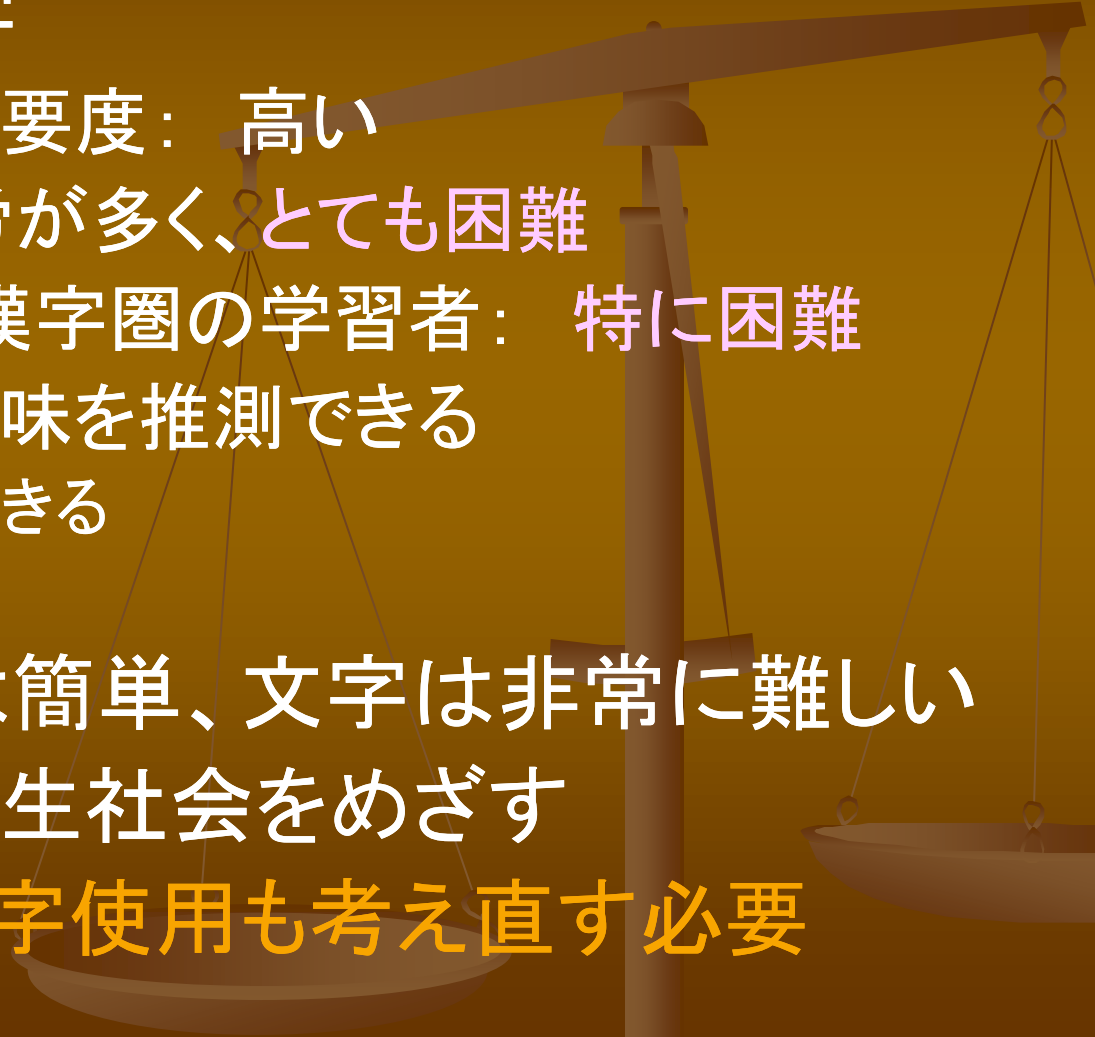
3. 何を教えるか③

- 機能： 依頼、断り、誘いなど
- 場面： 買い物、病院、上司の部屋など
 - その状況で使われる言い方・語彙を指導
 - そのための文法・文型も指導
 - 即戦力になりやすい 「これを覚えて」が可能
- 語彙： ある分野に特化した語彙指導など
 - 子どものいる母親に「学校関連の語彙」指導
 - IT技術を持っている人に「IT日本語」語彙指導
 - 即戦力になりやすい

3. 何を教えるか④

- 話題： 趣味、クリスマス、健康診断など
 - 学習者が**関心**を持ちやすい
 - イヤでも関わる話題も多い → **学習動機アップ**
 - **会話をしながら勉強**
 - 一方的に教えるのではない
 - 必要となる語彙・文型を指導
 - 文型のベースとなる文法を指導
 - 今後、**積極的に導入**しては？
- 3/27の米勢先生の講座で説明

3. 何を教えるか⑤

- 技能のうち、漢字
 - 日常生活での重要度： 高い
 - 習得： 非常に労が多く、とても困難
 - ブラジルなど非漢字圏の学習者： 特に困難
 - 目標： 見たら意味を推測できる
 - × 正確に音読できる
 - × 書ける
 - 日本語： 文法は簡単、文字は非常に難しい
 - 日本が多文化共生社会をめざす
 - 日本人側の漢字使用も考え直す必要
- 

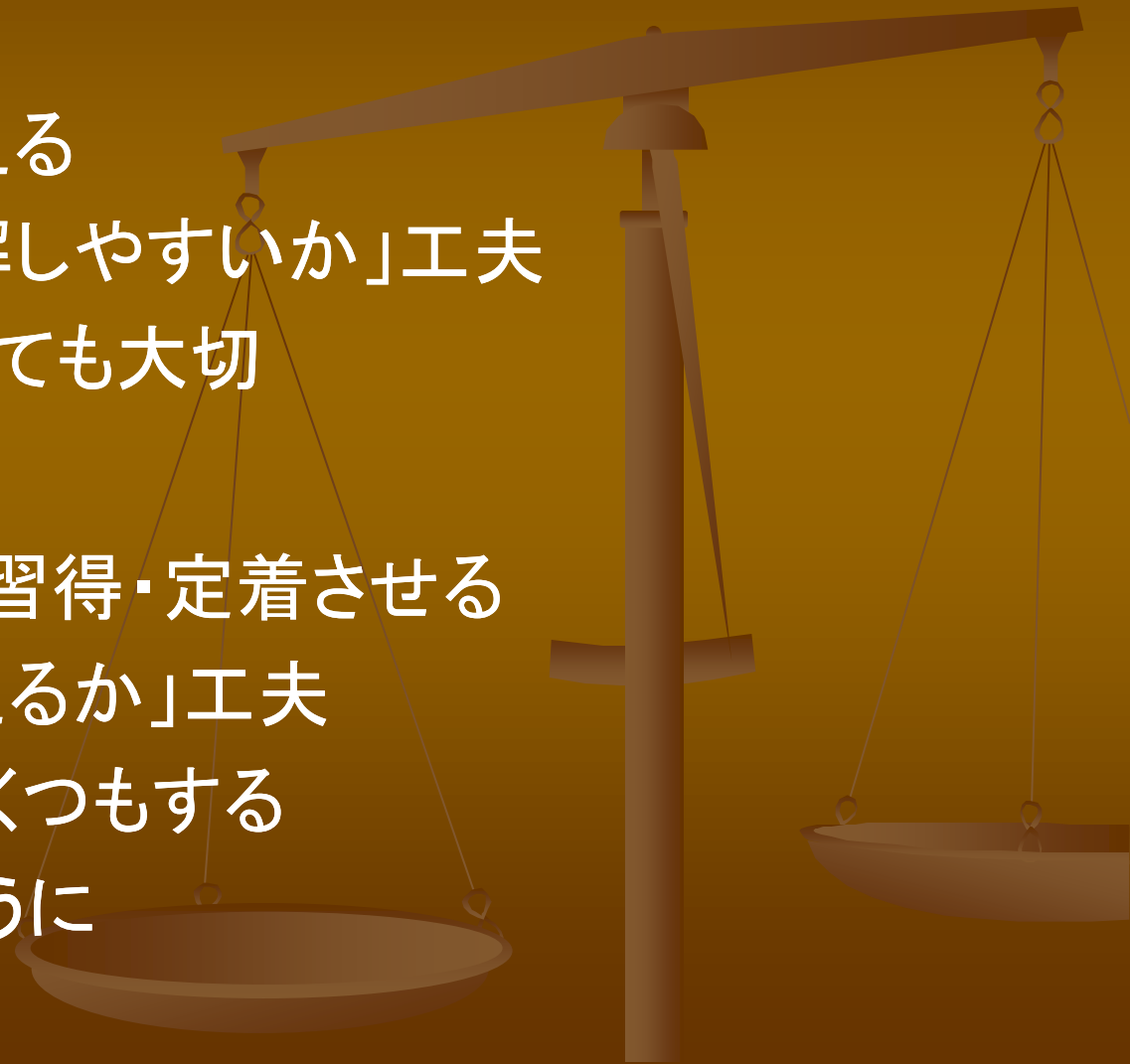
4. どう教えるか①

■ 導入

- 新しいことを教える
- 「どうすれば理解しやすいか」工夫
- 時間は短いがとても大切

■ 練習

- 導入した内容を習得・定着させる
- 「どうすれば覚えるか」工夫
- 時間が長い、いくつもする
→飽きさせないように



どう教えるか②

■ 導入： 教え込む

→ 正解を考えさせる

- 日本に長く住んでいる学習者： 聞いたことはある
- その知識を活用
- 例)「Vてもいいですか」の導入
 - × 暑いです。窓を開けたいです。この時「窓を開けてもいいですか」と言います。はい、リピートして...
 - ○ 暑いです。窓を開けたいです。Aさん、どう言いますか？「窓を開け...」 板書 窓を開け()いいですか。Bさん、ここは？「窓を開けて... ?」もう少し。Cさん...
- 学習者を優先に！ 教師は「産婆」役

4. どう教えるか③

文法・文型のパターン練習(1)

■ テ形での例

T:読みます S:読んで

T:書きます S:書いて

■ 内容

- 何度も声に出させる
- 考えずに自動的に
言えるようになるまで
- その繰り返し⇒
文法や文型の定着
- 正確さ

■ 必要なこと

■ …だけど、つまらない

- 非人間的、機械的
- 自分で発想できない
- なかなか覚えられない
→フラストレーション

■ 学習動機ダウン

- 「日本語は難しい」と
いう印象
- 教室に来なくなる

4. どう教えるか④

文法・文型のパターン練習(2)

- 工夫次第で面白くなる
 - リズムとスピードが重要
 - 絵カードを使う
 - 学習者にあてる順番の工夫
 - ランダムに/ もう一度当てる/ 上手な人の利用
 - 名詞だけを言って動詞を考えさせる→ 発想
 - 「Vてもいいですか」 T:タバコ S:吸ってもいい…
 - 一回に長時間やらず、次回の復習で繰り返す
 - 重要な文法: 使う文型ごとに繰り返し練習

4. どう教えるか⑤

■ 教える形

- 1人の教師が立つ⇒ 複数の学習者
- 1人の教師⇔ 複数の学習者に混ぜて教える
- 複数の教師⇔ 複数の学習者に混ぜる

■ 学習者から母国の事情を教えてください



- 学習者の動機アップ
- 指導者の知的好奇心

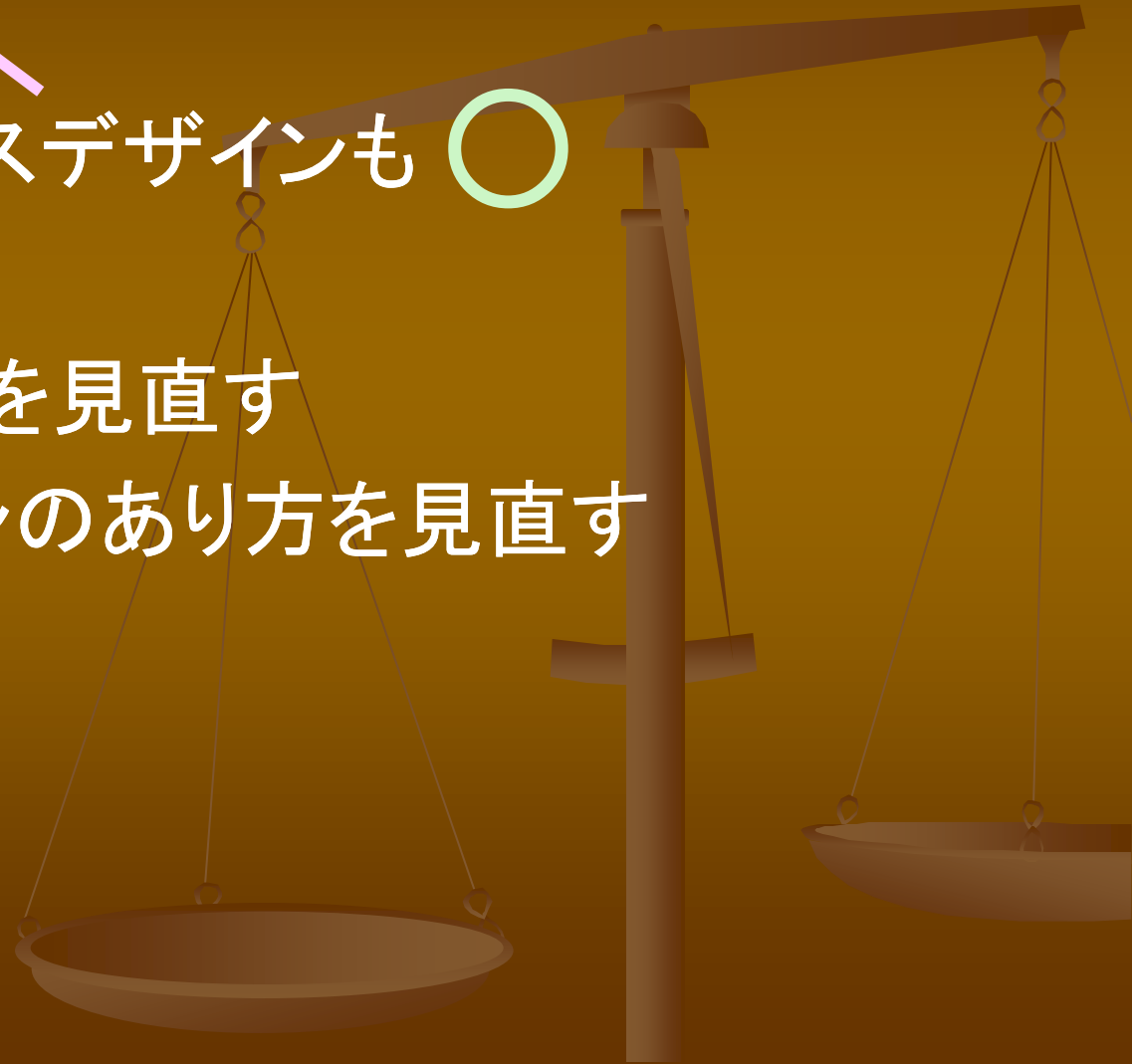
→双方にメリット

■ 「自分は先生で、あなたは学生」という姿勢



5. どう評価するか①

- 学習者だけ 
- 教師自身とコースデザインも 
- 評価結果
 - 自分の教え方を見直す
 - コースデザインのあり方を見直す



5. どう評価するか②

■ 評価するもの

■ 初めて来た学習者の既習日本語

- プレースメント・テスト&面接： 教室全体

■ 区切りでの習得度

- 4ヶ月に一回ほどの習得度テスト&面接： クラス毎

■ 学習者への教室への満足度&要望

- 母語でのアンケート&面接： 教室全体

→ 少しずつ整備・蓄積していく

教材 & 参考書リスト

一般的な主教材・漢字教材

- 「はじめよう日本語初級1&2」 スリーエーネットワーク 2300円
- 「日本語初級 大地1&2」 スリーエーネットワーク 2800円
- 「新文化初級日本語」 凡人社 2000円
- 「みんなの日本語1&2」 スリーエーネットワーク 2500円
- 「ニューアプローチ中級日本語(基礎編)」 日本語研究社 2700円
- 「中級へ行こう」 スリーエーネットワーク 2200円
- 「Basic Kanji Book vol.1&2」 凡人社 2500円
- 「Write Now! Kanji for beginners」 スリーエーネットワーク 1900円

子供向け・参考書

- 「日本語学級1&2&3」 凡人社 1900円
- 「にほんごをまなぼう」 文科省 951円
- 「こどものにほんご1&2」 スリーエーネットワーク 2000円
- 「ひろこさんのたのしいにほんご1&2」 凡人社 1800円
- 「子どもといっしょに！ 1&2」 凡人社 1100円
- 「絵でわかるかんたんかんじ80」 スリーエーネットワーク 1300円
- 「にほんごボランティア手帖」 凡人社 1200円
- 「新はじめての日本語教育2 日本語教授法入門」 ask 1900円
- 「すぐに役立つ日本語の教え方」アルク 1900円

まとめ

- 外国由来の児童・生徒の現状
→ 緊急に十分な支援を
 - 中信、特に松本の多文化共生
→ 調査 & 多文化推進プランなどが進展
 - コースデザイン
→ 日本語教室に合ったものを
⇒ 来週(2/27)により具体的な
「日本語教室が目指すもの」について研修
- 